

【15】 聖天講式

写1冊

〔書名よみ〕 しょうてんこうしき 〔編著者〕 未詳

〔書写者〕 尊岸 〔写刊年次〕 慶応三年（一八六七）

〔外題〕 聖天講式

〔内題〕 聖天講式

〔その他〕 ナシ

〔残欠状況〕 全 〔保存状況〕 小破 〔装訂〕 袋綴 〔丁数〕 一四丁

〔本文用字〕 漢字・片仮名 〔二面行数〕 七行、一行一三字程度 〔表紙〕

本文共紙 〔法量〕 縦一六・三×横一八・〇糎 〔料紙〕 斐紙（雁皮紙）

〔書入〕 あり（朱・墨） 朱筆で訓点（返点・送仮名）、振仮名、異本注記、

その他注記多くあり。 〔表紙書入〕（右下）春光山円覚寺尊岸 〔印記〕

ナシ 〔備考〕 尊岸二九。

〔奥書〕

右一卷醍醐寺金剛王院前

大僧正御自筆ニテ書写之

朱點一校了

印本奥書細字

亮雄律師修行之書写之 鷄羅山人亮恵

從永正十三丙午年至当壬寅廿七ヶ年之間浴油法

一百十三箇度修之其外華水供一千座修之

華水供百座者不知度敷浴又以下数百座

行レ之

弘治二年丙辰九月二十八日於東寺宝菩提院
浴油法伝授之此式申請書写之

桑島住侶 法印恵雄

永祿元年戊午三月廿一日東寺亮恵僧正去三

日古山華藏寺御下向之時浴油法伝授之

砌此式書之 法印恵賀 春秋三十九才

已上諸式 慶長十四己酉年六月日

於洛陽豊国智積院書写之了

金剛仏子秀算

右式密厳上人御草也此本恐為紛失

天文甲午年秋書写之了 乗秀

以右本令校合了

寛永廿一甲申卯月廿六日

尊慶

此講式

岩木山百澤寺々菴福寿坊住ニテ

金剛山最勝院

院代 法船房寿海

書写之上被贈下

永ク於春光山奉ニ誦誦一後代エ

授ニ与之

慶應三丁卯年菊月吉祥日

津輕深浦

春光山円覚寺

尊岸

〔解題〕

聖天講式は、聖天を講讚する講式で、聖天は歓喜天の別名である。内題の脇にも朱書で「歓喜天」と注記がある。インドでも早くから信仰され、もとは悪神であったが、日本では夫婦相愛、子宝を授ける神として信仰を集めた。

元奥書は、この一卷が、「醍醐寺金剛王院」の前大僧正の自筆本を書写したという由から始まる。醍醐寺金剛王院とは、醍醐寺の子院で、平安時代末に三宝院の開祖勝覚の法を受けた聖賢によって開かれ、源運・果海・賢海と受けつがれ、覚濟・実助らが住した。醍醐五門跡の一つにあげられ、金剛王院流の法脈は、小野六流・醍醐三流の一つに数えられた。近世に入って衰退し、明治七年（一八七四）、醍醐寺の南にある一言寺に併合、現在、真言宗醍醐派金剛王院一言寺としてその名を伝えている。

また続く奥書には、名だたる僧たちが名を連ねる。鶏羅山行人亮恵は、永正十三年（一五一六）から二十七年の間、「浴油法」を修したという。「浴油法」とは、油を以て歓喜天を沐浴する法で、鶏羅山は、けいしん、けいしんの住所である。亮恵（一四九〇～一五六六）は、東寺宝菩提院の学僧である。もとは、比叡山山王権現社社務の子で、小野・広沢の法を学ぶべく宝菩提院俊雄に付き、醍醐山相承の密印を受け、瀉瓶の記を与えられた。享祿二年（一五二九）には、宝菩提院にて諸国の龍象に醍醐の印可を授けたという人物である。

その後、本書は、慶長十四年（一六〇九）に洛陽豊国智積院の秀算が

書写する。

また天文甲午年（三、一五三四）には乗秀が書写、寛永二十一年（一六四四）には尊慶が校合したとあるように、次々に転写されている。そしてこの書は、いよいよ津輕岩木山に渡ってくる。奥書には、「岩木山百沢寺々庵福寿坊」に住していた「金剛山最勝院院代法船房寿海」が書写し、「春光山（円覚寺）」に贈ったことが記される。それを、慶應三年（一八六七）に六十五歳の尊岸が再写したと記す。醍醐寺から多くの経歴を経て、深浦円覚寺尊岸の元に届いたのである。

岩木山百沢寺は、もと岩木山神社（おりのみや）の別当寺院であった。現在は百沢寺は廃寺になっているため、百沢寺について知り得る資料が少ないのだが、本書奥書によって、百沢寺に「福寿坊」という寺庵があったこと、本書『聖天講式』を所蔵していたことがわかる。なお、「福寿坊」について、また「寿海」については未詳である。

このように、現在資料が追えない津輕寺社について、円覚寺の資料が新たな情報を提供してくれている。本書も百沢寺等について示す貴重な資料である。

（渡辺 麻里子）

春光山圖覺寺

尊岸

聖天講戒

歡喜天印本
 聖天講戒亦曾天女天利也
 我此道場如帝珠聖天部類影現中
 我身影現本尊前頭面接足歸命禮
 南無大聖大悲歡喜天印本天部類尊屬
 非降臨道場哀愍於我慈地印本圓滿
 敬白金剛胎藏西部曼荼羅九會

十二天會諸尊聖眾殊別大聖大
 悲歡喜天印本鷄羅山中諸大眷屬
 乃至佛眼照照恒沙塵數境界而
 言丈夫聖歡喜天王者功德於高
 天利益廣於地周遍十方衛護三
 寶本則等覺妙覺之尊也印本位於
 無垢地之月迹亦男天女天之体也

變化於有漏界之雲太慈大悲之
 本誓無疑利生之方便有特是
 以福德支知是武勇敬愛應願施
 之降魔調伏除病延命隨妙成之
 道俗貴賤誰不敬哉藉以億
 女生死之中難受者入身却令流轉
 之間難逢者佛教這受難受眾

之生幸逢難逢聖天之法機緣之
 至感淚難林林方今凝丹棘於心中
 儻香花於寶前讚聖天之德
 以前垂之慈地為每月之勤以展
 一重之講定今此講演更有五段一
 本地高廣三讚聖跡化道三明誓言
 願殊勝四仰利益無邊五速迴向

發願也亦大聖尊而聖天部類
 第一嘆本地高廣者大聖歡喜天
 王者陰陽三道根元也方像自斯
 生長金胎兩部教主也諸佛自茲
 降誕然間華翼國現思慮遠
 那而輔成等正覺之道查集世界
 示大虛空正藏而開福智嚴淨之門

名之人專仰此天達宿望古今不
勝計縹素男女之老肩也掌上如
華老少親踈之運志也門前成市
靈天誓願殊勝以之可知悉地成
就速疾以之可察仍唱伽陀可行
禮拜印本無
弘誓深如海歷劫不思議
我有微妙法世間甚希有

侍多千億佛發大清淨願
南無大聖大悲歡喜天主哀愍
於我悉地圓滿三遍
第四仰利益無邊者廣慧佛界之
色相隨時而顯現坐他土遊行依
物而自在普現色身示隨類形
聲於十界和光同塵施普門利益

於六道是以觀世音菩薩出太慈大
悲之門戶設三三身之利益之中
為降伏作障難者現毘那夜迦之
身形為護持佛法行人示速疾揭
焉之利益始自空巖華藏之終
暨分段同居淨土微塵刹刹
而無取不至沙界恒沙界之而無取

不現上游碧落下入黃泉世之
利益時而無止各各面之願事
不空就中生有限百千之逆窮
寂後之時臨終之刻男夫者學無
數之眷屬破四魔之群黨天者
擎百寶真之花臺迎九品之淨刹
兼利現當被益真俗者或仍唱

伽陀可行禮拜矣
弘誓深如海歷劫不思議
我有微妙法世間甚希有
侍多千億佛發大清淨願
衆生受持者皆與願滿足
南無大聖大悲歡喜天主哀愍
於我悉地圓滿三遍
第五述迴發願者諸佛菩薩之
度群類皆是斯尊之方便也諸神

權現之化眾生常非此天之善巧
哉若欲願十方諸佛之利益者須
供養此天若欲蒙一切諸神之冥
助者須恭敬此天雖致一尊一天
之讚嘆善增諸佛諸神威光依
之宜真高倍求皆仰大聖之加被
祈除病緣延命人專憑尊天之悲

願秘法勤修之砌必供養此天建
 壇祈念之所專安置此像然間感
 應是熟悉地早成願以此功德普
 及於一切沈之三眾群類無非世
 思所眷慈今六道合識無非生親
 族者然早結一佛土芳緣同期喜
 提之歡景迴向功力豈不然乎仰

願大聖大悲歡喜木天心納受座
 之講並延速成就二世之願願仍唱
 伽陀可行禮拜印本無
 願以此功德 普及於一切
 我等與眾生 皆共成佛道
 南無大聖大悲歡喜木天心
 法界平等利益 三遍
印本無

願法界平等利益 三遍
 右一卷醍醐寺金剛王院前大
 僧正御自筆手書寫之
 願以此功德 普及於一切
 願以下下不拜
 之齡 其表如願二世之願願仍唱
 願大聖大悲歡喜木天心納受座

印本與書
 京雄律師修行之書寫之 鷄羅山行人亮惠
 從永正十三四年至當年在京北七年之間浴池
 一百二十三箇度修之具外華水供一十箇修之
 華水供百座者不知度數治以下數百座
 行之
 弘治三年丙辰九月廿八日於東寺室蓋提院
 浴池法傳授之此式申請書寫之
 桑島住持法印惠雄
 永祿元年三月廿六日 覺寺亮惠僧正去三
 日古山華藏寺御下向之時 浴池法傳授之
 砌此式書之 法印惠實 壽永三十九年

已上諸式慶長十四酉年六月日
 於浴湯豐國智積院書寫之
 永祿元年 金剛佛子秀某
 右式密藏上人御草也此本思為紛失
 天文中甲午年秋書字之 兼秀
 以右本令校合了
 華寬永元年甲申卯月廿六日 禮百座
 一百二十三箇度修之具外華水供一十箇修之
 華水供百座者不知度數治以下數百座
 行之 京雄律師修行之書寫之 鷄羅山行人亮惠

此講式
 岩木山百澤寺 卷福壽坊位三
 金剛山嚴勝院
 院代法船房善海
 書寫之上被贈下
 永於春光山奉讀誦後代江
 授與之
 慶應三卯年菊月吉日
 津輕深浦
 春光山圓覺寺
 尊岸